

平成27年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）					整理番号	4 - 1 - 38
事務事業名	客船入港歓迎事業				担当課係	産業振興課 企業振興・商工港湾担当
総合計画上の位置付け	大項目	5. 「日（いとなみ）が輝く」			記入担当者 内線等	
	中項目	②産業の振興				
	小項目	4. 農水工商業の連携による地域資源の発掘や活用、魅力発信の強化				
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				E-mail	
事業予算費目	款	7	商工費	項	1	商工費
	目	4	観光費	事業	3	客船入港歓迎事業
開始年度	平成6	年度	根拠法令・要綱等			
■事務事業の概要（実施内容）						

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 徳島小松島港（新港岸壁・金磯岸壁・赤石岸壁）に寄港するクルーズ船の乗客船					
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） クルーズ船の寄港に伴い、その乗客及び乗組員に対する歓迎事業を行い、市の観光資源や特産物、名産品を紹介し、知名度の向上を図る。					
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 歓迎式典において、市の特産物や名産品を贈呈する。また、観光案内やボランティアガイドのツアーや市の特産品、名産品等の物産展を行い、周知を図る。					
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 平成6年の飛鳥初入港を皮切りに毎年歓迎事業を行っている。平成19年より本市の特産物や名産品のPRのため物産展を開催。現在は徳島県もクルーズ船の誘致に力を注いでおり、歓迎式典や物産展、観光案内等を実施し歓迎式典や見送りイベントも実施している。平成27年は外国船籍の大型クルーズも誘致され、歓迎事業を実施した。					

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

	指標名			指標の説明				指標化できない成果
		H26	H27	H28	H29	目標年度 目標値		
成果指標	入港船舶数	徳島の阿波踊り期間を中心に観光のため寄港するクルーズ船舶数				乗客・乗組員の心証・満足度		
	単位							
	目標	4	5	5	5			
	実績	4	5					
	達成度	100.0%	100.0%					
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H26	H27	H28	H29	指標の説明	
	乗船客数	人	計画	1,800	4,000	4,000	4,000	
			実績	2,534	5,333			
			計画					
			実績					
			計画					
		実績						

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		26年度決算	27年度決算	27年度予算	28年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	471,324	2,562,977	2,616,000	3,523,000	
	財源内訳	国県支出金	201,000	2,000,000		
		地方債	0	0		
		利用者負担	0	0		
		一般財源	270,324	562,977		
	B 人件費 ①×②	1,250,059	1,261,093			
	職員平均人件費①	6,250,297	6,305,465			
	従事した割合②/人	0.20	0.20			
	A + B	1,721,383	3,824,070			
単位コスト	活動指標の説明	客船1隻当たりのコスト 4隻	客船1隻当たりのコスト 5隻	備考		
	活動指標1単位当たりコスト	430,346	764,814	平成26年4月1日現在 人口40,333人 平成27年4月1日現在 人口39,866人		
	市民一人あたりのコスト	43	96			

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 徳島には徳島小松島港以外にも徳島市にマリナーミナルがあり、長年にわたり寄港している客船の寄港地が変更されないように管理者である徳島県に働きかける必要がある。乗客・乗組員に対しても寄港時のイベントの充実を図ることで小松島に愛着を持ってもらい、引き続き事業を実施できるようにすることが必須である。また、本年は外国船籍の大型クルーズが寄港し更なる事業の充実が望まれる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) クルーズ船の寄港については、地元住民にも浸透し、毎年寄港を楽しみにしている市民から多数の問合せがあり、寄港時には、岸壁に多くの見学者が訪れている。市民から船内見学や見送りイベントへの参加を募集し、みなとまち小松島のアピールを図ることができている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	日本船籍の客船3隻が同時期に入港しており、港の風物詩として市民に定着している。また、寄港について市民からの問合せが多数あり、関心の高さが伺える。本年は外国船籍の大型クルーズも初寄港し、乗客数も大幅に増加している。市の特産物や観光資源のPRとして好機である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	市が行う事によって、観光資源や特産物のPRの機会として物販の選定などに営利が絡まず、純粋に市の魅力発信の場となっていることから妥当であると判断する。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	徳島の最たる芸能である阿波踊りについても極力地元の阿波踊り連に依頼したり、地元楽団に演奏を依頼するなど、市の資源を活かしたイベント運営をおこなっている。また、本市特産物、名産を試食として提供し、より愛着をもっていただけるよう工夫している。市民参加型の見送りイベントを行う事で乗船客に市全体で歓迎しているという良い印象を持っていただけている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	本市で一度に多数の観光客が訪れる機会であり、市の知名度アップや観光資源、特産物のPRに好機である。年間を通じてそのような機会は希であり、緊急性は高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	乗船客や乗組員、運行会社、旅行代理店にも好評であり、ニーズは高い。また、外国船籍の大型クルーズの誘致にも成功している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	魅力ある寄港地づくりを図るため、今後とも徳島県と協力し、寄港時のおもてなしに対する課題の見極めをし、さらなる客船の誘致に努めなければならない。外国船籍の大型クルーズについても、国内の観光客はもとより、外国人客からも小松島市に愛着をもっていただき、観光振興及び小松島市の知名度向上に向けて、より充実した事業とすることが望まれる。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60～79点		
2		3 改善・効率化し継続	40～59点	79	本年は外国船籍の大型クルーズが寄港しており、従来の日本船籍の客船と同様、継続した寄港が見込まれる。客船の寄港には大勢の観光客、乗組員に小松島市をPRする良い機会となるので、より観光資源や特産物を活かしたイベントを行い、寄港による経済的波及効果が市に生じるように運営するべきである。
		4 終期設定し終了	20～39点		
		5 完了・休止・廃止	19点以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
1		3 改善・効率化し継続	日本船籍の客船のみならず、外国船籍の大型クルーズの寄港も実現している。大型客船の寄港により多数の県外、外国人観光客が本市を訪れており、観光資源や特産物をつまぐPRする良い機会である。引き続き歓迎式典等を行うだけでなく、特産物や名産の試食や小松島市の観光資源を知っていただくためにも、イベントを充実させる必要がある。関係機関とも協力関係を築き、より愛着をもっていただけるような小松島市ならではの歓迎事業の実施が望まれる。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	